

メダルラッシュ 障害者スポーツの全国大会で大活躍

妹背牛「夢の杜」の入居者



全国大会で好成績を収めた、右から
野村さん、岡本さん、正田さん

10月に佐賀県で開かれた「全国障害者スポーツ大会」(全障スポ)のフライングディスク競技で、妹背牛町のグループホーム「夢の杜」に入居する男女3人が好成績を収めました。3人のうち2人は、計3個のメダルを獲得。強化合宿や日々の練習スケジュールをこなし、技術を磨いてきた3人は周囲の支えに感謝し、今大会の結果に喜びをかみしめています。

3人は、野村幸一さん、岡本晴美さん、正田香織さん。樹脂製の円盤を投げるフライングディスクで、飛距離を競う「ディスク」と正確さを競う「アキュラシー」の2種目に出場しました。

聴覚障がいのある野村さんはディスクで銀メダル、アキュラシーで銅メダルを獲得。利き手の右腕を痛め、急きよ左腕で挑んだ大会について「思うように練習ができなくて残念だったけれど、メダルを取れてうれしい」と、振り返ります。

視覚障がいのある岡本さんは「体が軽くなって、真つすぐに投げられた」と本番の強さを発揮し、ディスクで21・22歳を記録して銅メダルを手に入れました。

聴覚障がいのある正田さんはディスクで4位入賞。惜しくもメダルを逃しましたが、「来年はメダルを取りたい」と、練習に励んでいます。

となりの外国人

担当：ズオン・ティ・フォン

ベトナム人の地域おこし協力隊員が町内の外国人を紹介する企画です。

グエン・ティ・ゴック・アインさん(25)はハノイ大学の日本語学部3年生で、現在は妹背牛温泉ペペルのレストラン「米里」で働いています。

インターンとして働く初めてのベトナム人で、最初は不安な気持ちもありましたが、同じ職場の人たちがいろいろと手伝ってくれるので安心して仕事ができています。

母国にいた時、レストランで働いたことがないので実習を通じて日本人の働き方、お客さんへのおもてなしを身に付けました。

アインさんの出身は、ベトナムの首都ハノイです。都会は、喧騒や交通騒音が問題になることが多く、アインさんも苦手な意識があります。静か

な妹背牛には四季折々の景色や香り、音を感じることができ、ここの雰囲気がお気に入りといいます。

インターンの滞在期間は1年間なので、2025年4月まで、妹背牛での仕事と生活を楽しんでいます。

今後の予定を聞くと「インターン期間が終わったら、ベトナムで大学生活を続け、北海道のきれいな景色、妹背牛町での生活、1年間の思い出を友だちに語りたいと思います」と言いました。

このインターンシップ制度は日越の架け橋となり、北海道に興味を持つ外国人大学生の受け入れに期待されています。



妹背牛温泉ペペルのレストラン「米里」で働くアインさん